

# 人事の雑学 宇宙のいろいろ

太田隆次

## 第1章 宇宙という言葉の整理

日本語では宇宙は漢字から貰った「宇宙」という一語しかありませんが、欧米では「宇宙とは何か」の「視点」によって区別があります。

漢字の「宇宙」－「だだっぴろい屋根の下」という意味で中国語系です

中国では紀元前2世紀に書かれた「淮南子」（えなんし）という書物に「往古来今謂之宙、四方上下謂之宇」（過去から今までの時の流れを宙といい、四方上下の空間を宇という）とあり、空間〈宇〉と時間（宙）は、大きな屋根を表す宀という、かんむり偏の下にあります。これが古代中国人の宇宙観です。この漢字の「宇宙」がそのまま日本語になっています。

視点の違いが「宇宙」になった欧米系

### 1. 空間（Space）を視点にした「宇宙」で、フランス語系です

地球の外の世界すべての空間を Space といい、日本語では「宇宙」と訳しています。

日本語ではスペースはすき間、空き場所のことですね。

例です。

Spacecraft（宇宙船）、Spaceship（宇宙船）、Space Research Center（宇宙研究センター）、Space Rocket（宇宙ロケット）など、「地球の外」を見通した空間 Space を「宇宙」と言います。

### 2. 「一つ」（Uni）を視点にした「宇宙」でラテン語系です

地球も一員として含めた天地万物を全部含めて Universe といい、日本語では「宇宙」と訳しています。ラテン語系の Uni は One（一、単一）で、Universe は「宇宙は一つ」と考える「宇宙」です。全知全能の神の目からみた宇宙です。

University は各分野を「一つ」にまとめた総合大学のことです。ミスコンのミス

ユニバースは頂けませんが。

### 3. 「秩序」(Cosmos) を視点にした「宇宙」でギリシャ語系です

散りばめた星座、銀河の動きも観測していると、実は秩序正しく動いていることに注目してギリシャ語の「秩序」(Cosmos)こそが「宇宙」の本質という考えです。

Cosmic Rays(宇宙線)、Cosmography (宇宙物理学) など、宇宙の秩序を研究しています。NHK にも「コズミック」という宇宙番組がありますね。

尚、化粧品の Cosmetic は、Cosmos から出来た言葉で、「顔を秩序正しく美しく整える」という意味です。コスモスの花も整然とした秩序正しい形をしているのでこの名があります。

日本語には残念ながら「宇宙」という一語しかありませんが、漢字や欧米の言葉の「宇宙」にはこのようなロマンがありました。

(この稿はコンサルタント時代の自分のホームページに書いたメルマガの一部です。)

## 第2章 足し算的な天文学者のバランス感覚に学ぶ

よく新しい星や彗星が見つかったと話題になりますが、天文学者が望遠鏡につきっきりで実際に発見したのではなく、太陽や星の軌道計算や重力の変化を総合して、今は空白だが、ある時点である星や彗星がやって来る筈だと見当を付けて何年も綿密に写真を取り続け追跡したり、計算し続けた結果、新しい星や彗星が見つかることが多いそうです。

五次元世界の存在の研究で世界的に著名なハーバード大学のランドール博士は、「私たちの住んでいる地球の重力は計算上もっと強いはずなのに、桁違いに弱いのは、縦、横、高さ、時間の四次元以外に五つめの次元の世界の重力が地球に入り込んでいると考えれば説明が出来る」という仮説をたて注目を浴びています。

新しい星の発見や、素粒子やダークマターや五次元の世界の存在の仮説などに共通するのは、まだ分からない不足分の「何かを足せば」釣り合いが保ち証明が出来る、謎が解けるといふ、足し算的なバランス感覚だと思います。

バランスと言えは日本語では「釣り合っている」という意味で完了形の静止画的に使われていますが、原義は天秤の二つの皿を釣り合わせるために、進行形の動画的に片方にいくら足せば「釣り合うか」ということです。

言葉の詮索をすると一層はっきりします。バランス (Balance) とは、「二つ」の意味のラテン語の *ba* (二ヶ国語のバイリンガルの *bi* も同じです) と、「皿」を意味する *lanx* がくっついた *balanx* つまり両皿天秤の「二つの皿」のことで、始めから「釣り合っている」状態の意味ではなく、二つの皿を釣り合わせるために一方の皿に足りない重さを載せることです。

会計用語でも、バランスとは、差引き残高、収支の差額でのことで、「バランスシート」とは利益や債権や債務などの不足分や差額を一目瞭然にして最後に両皿天秤のように差し引きゼロにして釣り合わせる「差し引き不足分リスト」で、言葉通りまさに「バランス」です。会計用語だけでなく日常英語で「私の銀行バランスが少ない」(My bank balance is small,) とは「銀行預金の残高が少ない」ことです。

子供の教育や人材育成や人事評価でも頭から理想像を押し付けるのではなく「ここを足せば、ここを伸ばすと、もっとよくなる筈」とか、ダイエットでも栄養や運動など個人の事情に合わせて「これを付け加えれば」など、何事によらず「バランス」の言葉の原点に戻り、「いくら足せば釣り合うのか」と、足し算で考えれば、何でも子供の教育も部下の教育も働き方改革なども、ハッピーに前向きに取り組めるのではないのでしょうか。

### 第3章 「宇宙から見た地球」の写真が訴えていること

1. まず人類が初めて見た「宇宙に浮かぶ地球」の下の歴史的な写真をご覧ください。

日の出ならぬこの有名な「地球の出」の写真は、世界中の人々の地球に対する見方を変えました。アポロ 8 号の宇宙飛行士ウィリアム・アンダース (William Anders) が、彼のチームが 1968 年に初めて月を周回した人類となった時にこの写真を撮影したものです。



(1968 年 12 月 22 日、米航空宇宙局 (NASA) の宇宙探査機アポロ 8 号が撮影したこの望遠写真では、月の地平線から地球が昇っています。日の出ではなく地球の出です)

私ごとですが、私は 1967 年から 1969 年までアメリカに留学中で、このカラー写真は大変珍しがられ、求められるままに 200 枚ぐらい焼き増しして、

日本の上司、先輩、友人たちに送りました。何しろ「宇宙に浮かぶ地球」をカラーではじめて見たのですから誰もが興奮したのも無理はありません。

2. 下はこの宇宙に浮かぶ地球の46億年前から現在までの履歴書です(年数は大体の数字です)

### 地球の生命誕生期

地球誕生	46億年前
バクテリアの出現	38億年前
光合成する生物(藍藻)	32億年前
大気中の酸素量増大	20数億年前
最古の小惑星衝突	20億年前
大規模氷河時代	8~6億年前

### 古生代

生命の多様化(三葉虫、アンモナイト、昆虫 ゴキブリ、節足動物、爬虫類)	5億7000万~2億5千万
--	---------------

年前

### 中生代

恐竜出現	2億5千万年前
哺乳類出現	2億2500万年前
鳥類出現	1億5千万年前
恐竜絶滅	6500年前

### 新生代

霊長類出現	6500万年前
アルプス、ヒマラヤ山脈形成	2500万年前
直立二足走行の猿人出現	500万年前
北京原人出現	50万年前
ネアンデルタール人出現	23万年前
ホモサピエンス(現代の人類)の出現	20万年前
人類、アフリカから世界各地に移住を始める	10万年前
人類、農耕を始める	1万3000年前

人類、家畜化を始める	1万1000年前
人類、文明を作り戦争や自然環境の破壊を始める	5000年前
人類、産業革命でエネルギー大量消費始める	250年前
人類、人口爆発始まる（35億人から現在70億人へ）	40年前
人類、人口爆発100億人に	90年後
地球の温度2度上昇	40年後

**地球消滅期**（約50億年後に太陽が燃え尽き爆発する以前に消滅する。

実際は2000万年後までに地球は太陽の燃え尽きる熱で灼熱地獄になり一切の生物は熱で絶滅するという説があるそうです)

地球の浮かんでいるこの写真に、上の地球年表を重ね合わせるとよく言われるように、地球が生まれてから今までの時間を1月1日からの1年間とすると、私たち人類が生きてきた時間は大晦日の最後の瞬間にあたります。情けないことに、最後の最後に現れた最も賢明なはずの人類が、戦争を止められず、地球を破壊し続ける悪行の限りを尽くしているとしかいえません。言葉は悪いですが、写真に見る、宇宙に浮かぶこの美しい地球は、誕生46億年後にまさに踏んだり蹴ったりされている惨状です。

1) エネルギー — 化石燃料の大量消費

石炭、石油などの、限りある化石燃料を大量に消費し続けています。

2) 戦争 — 体制、領土、領海、宗教をめぐる戦争

人類は知恵があることが災いして、何千年たっても領土や領海や宗教や体制の違いをめぐる愚かな争いや戦争や殺戮を止められません。

3) 環境破壊 — 地球の環境破壊を止められない

文明の向上や開発の名のもとに自然を破壊し、公害で人類や生物の生命を奪い続けています。

4) 地球温暖化 — 毎年上昇し続ける大気と異常気象を止められない

国のエセ正義と、環境技術の貧困で、異常気象や地球温暖化を止められないでいる。

もし全知全能の造物主や神がいるとして、宇宙に浮かんでいるこの美しい地球に最後に現れた賢い筈の人類が、実は戦争や環境破壊を続けているのを見た

ら、どう思うでしょうか。宇宙のどこからかの星々から、地球人と仲良くなろうとUFO達が偵察に飛来したものの、この地球の現実に幻滅して帰ってしまうとこれは悲観的過ぎるでしょうか。